

1 いしずえ地藏尊



基本情報

所在：一蓮寺
 住所：山梨県甲府市太田町5-16
 (JR甲府駅から山梨交通「遊亀公園」下車 徒歩2分)
 連絡先：一蓮寺 055-233-2009
 建立者：有志一同
 建立年：昭和27、28年頃建立、平成11年10月改修

碑文

【台座】

戦災殉難者
 慰 霊 いしずえ地藏尊

【標石】

戦災死者慰霊

いしずえ
 礎 地藏尊

説明文

いしずえ地藏尊縁由

第二次世界大戦末期の昭和二十年七月六日夜半より七日払暁にかけ当市は大空襲を受け焼土と化する
 殊に当地にて死せる人夥しく三百余体を当山境内にて茶毘に付し当所に埋葬す
 終戦後間もなく市営墓地に改葬せしも当時の惨状誠に忘れ難く跡地に篤心者に依り慰霊の地藏尊が建立され今日に至りしと謂う
 以来五十有余年堂宇等の損耗殊の外激しく茲に整備改築を發願し有縁の士の協賛を基に是を成就せり
 平和への礎となられたる諸精霊への慰霊と報恩の深心を以て茲に いしずえ地藏尊と稱し奉ることとせり
 冀くは向後参詣の士には平和護持倍増の志を以て諸精霊の冥福と謝徳の誠心を賜わらんことを

平成十一年十月仏日
 一蓮寺

2 戦災殉難者無縁佛供養碑



基本情報

所在：つつじが崎霊園
 住所：山梨県甲府市岩窪町533-1
 (JR甲府駅より 山梨交通「護国神社入口」下車 徒歩15分)
 連絡先：甲府市 055-237-1161 (代表)
 建立者：甲府市
 建立年：昭和34年8月10日

碑文

【表】

戦災殉難者無縁佛供養碑

【裏】

建立の趣旨

昭和二十年七月六日夜甲府市は戦災でたちまちのうちに全市の八割が焦土と化し七百七十五人の尊い市民の命が失われた。その際三百七十三の遺体は引き取り手がなく一時太田町公園に仮埋葬した。昭和二十五年四月この遺体を火葬したがそのうち二百十三の遺骨は遺族の手に引き渡され残りの百四十の遺骨は尔来十年なお無縁の佛として岩窪町大泉寺に安置されてきた。その無縁の佛を新たに設けられたここ甲府市営公園墓地に迎え戦災殉難者のみたまの永遠に安からんことを心から祈念して供養碑を建立した。

昭和三十四年八月十日
 甲府市長 鷹野啓次郎

3 武蔵航空工場被爆殉難者之碑



基本情報

所 在：竜ヶ丘会館
 住 所：山梨県富士吉田市竜ヶ丘3-4-33
 （富士急行線 富士急ハイランド駅 徒歩12分）
 連絡先：不明
 建立者：剣丸尾武蔵会
 建立年：昭和32年7月30日

碑 文

【表】

殉難碑

殉難者

(故人名)

武蔵航空工場被爆殉難者之碑

題字 西山巧記

太平洋戦争の末 此の地に二萬坪の敷地を整理して広大な工場が建ち並び勤労学徒隊を含めて二千余名の者が航空機の生産に従って居りました 昭和二十年七月三十日午後一時突如として米軍艦載機数編隊の襲撃を受け一瞬にして十二人の貴い生命を喪い二十余人の負傷者を出すという惨事に至りました 越えて八月十五日終戦を迎え爾來星霜十有二年 工場跡は一望の水田と変り世人の記憶も漸く薄れゆこうとする時 元従業員一同亡き友を偲んで記念碑建立のことを発起しましたところ 過去十二年間朝夕にねんごろな供養を続けてこられた元社長西山巧記殿の絶大なご協力と県市当局並びに有志縁故多数の方々の御力添えによってここに成就することを得ました 謹んで十二柱英霊の御冥福を祈る次第であります

□岩に降る雨静かなり 月見草 淤水

(個人名)

昭和三十二年七月三十日
 為十三年忌法要供養建立

剣丸尾武蔵会

【裏】

慰霊

山梨県知事
 天野 久
 書

4 遺髪塚



基本情報

所在地：行願寺 共同墓地内
 住所：山梨県大月市大月1-21-22
 (JR大月駅 徒歩5分)
 連絡先：行願寺 0554-22-1780
 建立者：遺髪塚整備委員会
 建立年：昭和52年8月13日

碑文

遺髪塚
 山梨県立都留高等学校東校舎生徒会

説明文

遺髪塚合祀靈名
 (故人名)

遺髪塚の記

太平洋戦争もまさに終らんとする昭和二十年八月十三日午前八時二十分思いもよらぬ無差別の空襲たちまち悲惨な血の地獄と化した都留高女このたった数分の拳があたら十数名の尊い生命を奪う戦い終り悲しみの中に校葬を挙行遺髪を塚に納めて弔う三十年旧都留高女校舎の歴史を閉ずるの時生徒会の名にて碑を建立今年三十三回忌に当り同窓旧師四百余名挙りて遺髪塚を整備し懇ろに回向して永久の冥福を祈る。

昭和五十二年八月十三日
 遺髪塚整備委員会

終戦既に五十年歴史の重さを痛感しつつ旧師同窓願い一つに遺髪塚をば大改修し追悼の法要も営み、以後の管理を都留高等学校同窓会並びに学校当局に委ね、永久の供養と歩み来し五十年の思いを託し万感込めてみ霊の冥福を祈る。

平成六年七月二十四日
 遺髪塚管理委員会

5 遺髪塚追悼法要



※写真提供 山梨県立都留高等学校 同窓会

開催概要 (平成24年度)

歳事名：遺髪塚追悼法要
 会場：行願寺 遺髪塚前
 (JR大月駅 徒歩5分)
 日時：平成24年8月13日(月) ※例年8月13日開催
 参加者数：約40人
 連絡先：都留高等学校同窓会事務局

式次第 (平成24年度)

1. 開会のことば
2. 行願寺住職の読経
3. 都留高校同窓会長の式辞
4. 都留高校校長追悼の言葉
5. 閉会のことば
6. 遺髪塚への献花・参拝

式辞 (平成24年度)

都留高等学校同窓会を代表いたしまして一言追悼のご挨拶を申し上げます。同窓会役員の方々を初め空襲でお亡くなりになられた方々のご遺族の御出席を得まして、追悼法要が出来ますことを大変有り難く感謝いたします。今回の法要は昭和二十年八月十三日に起きました大月空襲の日から六十七年が過ぎた日であります。大月空襲の当日は、アメリカ軍の艦載機による爆撃そして機銃掃射により私たちの先輩や同輩の命が奪われた日であります。私たちはこの日を忘れる事が出来ません。私も当時中学一年生でした。当日は自宅から学校へ行く途中で目の前で爆撃の瞬間を見ました。あの光景は決して忘れる事が出来ませんし、また後で知りましたが大変な被害を被った事も忘れる事が出来ません。このことを風化させず後の人に伝えて行かなければならないと思います。大月空襲と同様に現在あの当時の戦争による苦しみを知っている人が少なくなってきています。そのために私たちは当時の経験を若い人たちに伝えることが重要な役目だと思います。太平洋戦争では大変大勢の方が亡くなりました。亡くなられた方のご家族もお国のためと言われ悲しみをかみしめて我慢を強いられた大変な時代でした。このような事は二度と起こしてはいけません。戦後日本も大変な復興を成し遂げ平和な時代をおくって来ております。しかしこの間に色々な出来事が起きて居ります。特に昨年は東日本大震災による甚大な被害、また、東京電力の福島第一原発の事故による放射能汚染により大変大勢の方に苦しみと悲しみをもたらしました。しかし、国民全体が早くこの大変な国難ともいえる災害を乗り越える事に努力をして居ります。私たちが、東北地方の災害に遭われた皆様の応援をして行くことが必要だと思います。そしてこの人たちが早く元の生活に戻れる事を願って行きたいと思っております。本日はこれより遺髪塚及び健児の塔に参拝して、今迄戦争等で命を落とした人のご冥福を祈りたいと思っております。本日は大勢の皆様にお集まり下さいました事に感謝申し上げます。お礼の言葉とさせていただきます。

平成二十四年八月十三日
 都留高等学校同窓会長 小俣 博義